

10月号

ひだまり

わかくさこども園



2022.9.29



アリをさがせ



(2022.9.28)

バツタ熱も少し下がり、最近はおアリさがしがちょっとブーム。
虫好きの子は園庭中のアリを捕まえては虫かごに入れ、観察する毎日。
ある子いわく、「アリは目が小さくて顔がかわいいから好き」とのこと。

そんなお兄さんたちの姿を見て、ももはなの男の子たちもアリの世界に入る。
虫図鑑ハンドブックを首から下げて、公園へ。
慣れない図鑑をめくりながらアリを追っていると、大きな木に行き着いた。

「土のところじゃなくで、木のなかにいた。木のなかで寝てるんじゃない？」
「ほら、葉っぱのうらにもいるよ。葉っぱがおうちってこと？」

子どもたちのアリさがしはつづく。



10月の予定

5日(水) 秋の健康診断

12日(水) 避難訓練

22日(土) 入園見学会(R5年度入園者向け)

26日(水) 地域子育て相談会

なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



〇〇の秋

「秋」と聞いて、皆さんは何を連想しますか。食欲の秋、スポーツの秋、音楽の秋、読書の秋……。どれも魅力的ですね。暑さが落ち着いてくる秋は、新しいことを始めたり、集中して何かに取り組んだりしやすい、心地のよい季節です。

個人的には、そんな秋こそワンモアステップのチャンスだと思っています。機が熟してくる秋は、これまでの取り組みをもう一步進めたり、見直したりする良いタイミング。園内でも色々と新しいチャレンジが始まっています。いくつか、ご紹介しますね。

～食育の秋～

わかくさのキッチン担当、栄養士の高橋さんに、2学期から子どもたちの給食の時間に入ってもらっています。

自分たちが毎日口にするものを作っている人と触れる機会は、食育においてとても大事です。どんな食材が入っているのか、どのように調理されたのか、子どもたちは食べながら興味を持ちます。そして、その興味に「作った人」が直接応えると、子どもたちの食に対する興味の持ち方が全然違ってきます。

何より、子どもたちだって、「作ってくれてありがとう」の気持ちを、「作った人」に直接伝えたいのです。



～芸術の秋～

8月のひだまりで、廃材のご寄付を保護者のみなさんにお願ひしました。おかげさまでたくさん集まり、子どもたちの創作活動が2学期から本格的に始まりました。

たくさん素材の中から好きなものを選び、作りたいものを自由に作る。ものづくりを通じて表現する楽しさを、子どもたちに感じてもらえると嬉しいです。



～読書の秋～

園の図書室がリニューアルしました。詳しくは、今月の連載コラム「こども園たんけんたい」にて。





「保育」か「教育」か

先日参加した保育の研究会で、興味深いテーマが話題になりました。それは、普段私たちが何気なく言葉にしている「保育」と「教育」の違いについてです。

これまでも触れたことがありましたが、日本は児童福祉施設としての保育所、学校としての幼稚園と、特性が異なる子どもの施設が両立してきた歴史があり、保育所は「保育」、幼稚園は「教育」という考え方が一般的でした。現に今も「保育所に通っているが、教育を受けさせたいから幼稚園に入れたい」という相談が、園に寄せられることもあります。

そもそも「保育」は、保育所保育指針の中で『養護』（生命の保持・情緒の安定）の観点で子どもと関わるのが重要とされています。では、幼稚園には「保育」的な要素はないかというと、そうではありません。子どもが何かを学ぶ気持ちになるためには、まずは心地よくその場にいられること、すなわち周囲からの『養護』的な関わりが必要不可欠です。一方保育所は、『養護』を中心に置きながら、一人ひとりの自立を促していけるよう、保育者が「教育」的に子どもたちと関わる場面が多々あります。

つまり、「保育」と「教育」は決して別々のものではないということです。両方の視点があってこそ、子どもの学びがより深くなるというのが、昨今の「保育」と「教育」に対する考え方の一つのようなようです。（ちなみに「保育」は「教育」を内包する広義的な意味の言葉としても使われます）

そして、実はこの「保育」と「教育」のエッセンスは、保育所や幼稚園のその先、小学校にもつながっています。

「スタートカリキュラム」という言葉を聞いたことはありますか。小学校に入学する時、子どもが新生活にスムーズに入れるように組まれる最初の教育課程のことです。このカリキュラムの中心にある「生活科」という科目は、子どもの身近なもの（人、社会、自然など）との直接的な体験を通じ、学びの意欲を引き出すことを大切にしています。自分の生活そのものがテーマになることも多いので、より学びが能動的に、自分ごとになりやすいのが特徴です。

これはまさに、生活を通じて子どもたちの学びを深める保育所・幼稚園での「保育」に通じる科目です。平成29年に小学校学習指導要領が改定され、保育所や幼稚園での学びの延長上に小学校の教育があることが改めて強調されました。乳幼児期の育ちを担う保育所・幼稚園に期待される役割も、大きくなってきているとも言えると思っています。

ここでは書ききれませんが、我孫子市では幼保小の学びの連携を進めるため、定期的に園と小学校とで相互理解を深める機会を持っています。その話も、また折りをみてご紹介できればいいなと思っています。

季節の変わり目、気温差もあり、体調を崩しやすい時期でもあります。みなさまくれぐれも、寝冷えには気をつけてお過ごし下さい。





お知らせ



連載コラム

こども園たんけんたい



第6回「見つけて👁️ライブラリー」

子どもたちが本に触れる場所になればと、職員室の横に作った小さな図書室。この半年で分かったのは、漠然と本を置いただけでは、子どもたちの本への興味は生まれにくいということです。

例えば私たちも、書店で欲しい本が見つかった時や、思いがけず面白そうな本と出会った時はワクワクしませんか。世の書店さんはその辺をしっかりと考えていて、そのワクワクをお客さんに提供できるよう、本の見せ方に工夫を凝らしています。どんな価値ある魅力的な本も、見つけてもらわないと始まらないからです。

本屋に倣い、この度わかくさの図書室も一手間加えてみました。子どもたちの「知りたい」が見つかりやすいように、新たな「知りたい」と出会いやすいように。

活字離れが進んで久しい世の中ですが、本からでしか得られないものもあります。この新しい空間で、子どもたちがたくさんのワクワクを見つけてくれると嬉しいです。



保健だより

○10月10日 目の愛護デー

生まれた時は明暗を感じる程度の子どもの視力が、大人並みの1.0くらいになるのが6歳頃と言われます。子どもは視力に異常が生じてても、自分で症状を訴えることは難しいため、気になる様子が見られたら眼科を受診しましょう。

～こんなときは心配です～

目を細めて見る 片目で見ると 顔を傾けて見る
まぶしがかる いつも涙ぐんでいる まぶたが下がっている

○薄着のススメ

肌寒くなってくると、つい子どもに厚着をさせたくくなりますが、子どもは意外と寒さに強いものです。冬に向けて抵抗力をつけ、丈夫な皮膚を作っていくためにも、今から薄着を心がけていきましょう。大人が「長袖を着よう」と思ったときは、子どもは長袖にするのを少し遅らせる、大人が重ね着するときには、子どもが1枚少なく着せるなどを意識すると、自然と薄着が習慣づけられます。

～薄着で過ごすコツ～

- ・寒いときは薄手の上着で調節する
- ・肌着を着て保温する
- ・おなかと背中が出ないようにする

○予防接種について

近年新型コロナウイルスの流行の影響で、病院受診をためらう方も多く、お子さんの予防接種を控えているという方もいるようです。しかし、予防接種は感染症から身を守る上でとても大事なものであり、接種時期が決まっているものが多く、それを逃すと自費で接種しなければならなくなるものもあります。かかりつけの病院の状況を確認しながら、定められた期間内に予防接種を済ませられるようにしましょう。

また、コドモンの連絡帳からでも構いませんので、予防接種を受けた時は必ず、「ワクチン名と何回目か」を、園までお知らせください。



看護師・藤井 佑季



10月 保健の予定

5日（水）	秋の健康診断
25日（火）	ふじ・みそら 身体測定
26日（水）	ももはな 身体測定
27日（木）	こむぎ・ゆずは 身体測定

わかかさこども園

wakakusa kodomoen